

人間発達学専攻臨床心理学コースの概要と特色

本専攻の臨床心理学コースは、臨床心理士の養成に特化されたコースである。教育目標は、教育、保健、医療、福祉などさまざまな専門職と共同体制を組んで実践活動、研究活動、専門活動のできるスクールカウンセラー、産業カウンセラー、医療カウンセラー、司法・矯正カウンセラー、心理臨床開業等の人材を養成することにある。

(1) 臨床心理学コースのアドミッション・ポリシー

本コースでは、臨床心理論にかかわる専門的な知識と研究能力を持つとともに、多様な研究課題に取り組む研究態度を持った学生を求める。本コースを志願する者は、学部において心理学に関する科目についての履修をしていることが望まれる。

(2) 臨床心理学コースのカリキュラム・ポリシー

本コースは臨床心理論、研究法分野、基礎分野、社会分野、精神・身体分野の5研究分野に計25科目の授業科目を配している。臨床心理論の13科目28単位は必修で、本コースに所属する院生のみを対象とするものである。他の研究分野の12科目は選択必修で、4研究分野にわたって、それぞれ2単位を選択し、8単位以上を修得することになっている。

このことによって、専門活動に関する科目、実践活動に関する科目、研究活動に関する科目をバランスよく履修できるようになっている。

(3) 臨床心理学コースのディプロマ・ポリシー

本コースでは、学生がその研究を組織的・体系的に深化させ、十分な学問的水準を満たした学位論文を作成して修士（学術）の学位を得るために、次のような手順を決めている。

- ・入学前に研究計画書の提出を求め、これに基づいて入学後の研究指導教員を決定する。
- ・2年次の5月末までに研究題目を決定させ、この研究題目に基づいて、修士論文の中間発表会を行う。
この場合、研究指導教員ではない教員からも広く指導を受ける機会とする。
- ・中間発表会における学術討論、教育指導等の内容を反映させる形で学位論文を作成させる。

本コースにおける学位論文は、以上の手順を踏まえるとともに、学位規則ならびに学位論文審査等の判定基準に示した研究水準を満たす必要がある。

なお、本コースでは、修了後に公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する「臨床心理士」の受験資格を取得することができる。本コースは、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会から2005年5月に第1種大学院の指定を受け、2006年4月に入学した院生から適用されている。